

人間じんかんにう生まれて

“つながりを生きよう” 319

浄土真宗は 信ずることを要求しない。

伊藤元

他力の信心は信じることを要求しないと思いますが、皆さんはどう思いますか。信じるとか信じないとかは同じ「私が」の立場からの言葉です。何か大事なことを見失っていませんか。

2月は雪も除雪機を出すほど降り積もることは無く、中旬は20度近くまで気温が上がりましたが、下旬はまた寒さが戻り、0度近くになる日もありました。この寒さの中、地震で被災し避難所におられる方はどうやって暖をとっておられるのか心配です。

表題の言葉は先日福光で開かれた研修会での講師の言葉です。「私」に囚われて、その「私」を見つめることがなかったら新たな自分も発見され

ず、他者のことも見えなくなり、そこで思考停止になりませんか。どんな状況でもどんな者であっても常に見続けてくださっていることこそ阿弥陀仏の私へのはたらきだと思えます。

2月17日は涅槃会をしました。

親鸞聖人は『教行信証』の中で、お釈迦さまが亡くなられてから元仁元年で2183年経ったと書かれています。その年は同時に『教行信証』の草稿本が出来た年ともされており、今年でちよう

ど800年になります。あわせると今年でお釈迦さまが亡くなられて2983年目の命日となります。今回の涅槃会は初めての企画でしたが、涅槃団子の作成もあわせて、お釈迦さまの遺徳を偲ぶ機会になりました。武種さんのお話しもわかりやすく、来年も続けていきたいと思えます。ご協力ご参詣ください。

3月真敬寺行事予定

- 3日(日) 真宗教室 午後2時
- 17日(日) 定例聞法会
 広瀬老人会追悼会
 広瀬福寿大学閉校式
 午後1時半
 法話 大島一声さん
- 下旬 日曜学校修卒業式

定例聞法会法話の聞書

涅槃会

武種 浄(たけくさじょう)さん

南砺市三清了泉寺住職



涅槃とは、煩惱の火が消え、人間が持っている本能から解放され、心の安らぎを得た状態のことを指します。仏教が理想とする覚りの境地であり、一般には「死」を表す言葉でもあります。

涅槃はサンスクリット語でニルバーナ(吹き消す)という意味があり、

お釈迦様が入滅されたときに、ロウソクの火が静かに消えるように亡くなられたことから、涅槃という言葉を使ったときされています。

日本の多くの寺院ではお釈迦様が入滅されたときされる、2月の15日に合わせて涅槃図を飾り、お釈迦さまを偲ぶ法要「涅槃会」を執り行います。「涅槃会」の法要は少なくとも奈良時代には営まれていたときられています。お釈迦様が誕生なされたのは4月8日(降誕会・花祭り)です、お悟りを開かれたのは12月8日(成道会)です。この三つをあわせて三仏忌というそうです。

お釈迦さまが亡くなられるときにお弟子のアーナンダを呼んでこのように仰ったそうです。

「アーナンダよ悲しむな、嘆くな、アーナンダよ私はあらかじめこの

ように説いたではないか、すべての愛するもの・好むものからも別れ、離れ、異なるに至るということ。

およそ生じ、存在し、つくられ、破壊さるべきものであるのに、それが破壊しないようにということ、どうしてありえようか。……アーナンダよ、お前は善いことをしてくれた。つとめはげんで修行せよ。

もろもろの事象は過ぎ去るものである。」

これがお釈迦様の最後の言葉であつたと経典は伝えております。仏教を開かれたお釈迦様は一人の人間として安らかに最後を迎えられた。

お釈迦さまが亡くなる様子は、「涅槃経」に記されていてそれにも

とづきお釈迦様が入滅されたときの様子を描かれたものを涅槃図といっています。

中央には「宝台(ベット)」の上にお釈迦様が頭を北に顔を西に(頭北面西)横たわっております。

中央には、お釈迦さまの亡くなられた日が2月15日であることから、十五夜の美しい満月が描かれています。

右上部に雲に乗った一団が見られます、先導しているのはお釈迦様の弟子阿那律(不眠の誓いを立てた天眼第一の弟子)、その後にお釈迦様のお母さんであったマヤー夫人が4人の女性を従えて忉利天とつりてんから下りてこられ、お釈迦様にもっと教えを説いてほしいと不老長寿の薬の袋を投げられますが、マヤー夫人の願いも空しく、おしゃかさまの枕の上

の沙羅双樹の木の枝に引っかかります。それがこれです。

今でもお医者さんが患者さんにお薬を処方することを「投薬」といいます。これはこのお釈迦様のお母さんのマヤー夫人がお釈迦様に向かって薬を投げたことからいわれているそうです。

お釈迦様には届かなかった薬は何を意味しているかというところ、命あるものは必ず滅するという諸行無常の理をここに伝えていっています。

お釈迦様が横たわっておりますまわりには、8本の沙羅双樹の木があります。向かって右側の4本は白く枯れています、これはお釈迦様が入滅したことを植物も悲しいんだということの意味しています。一方で左側に4本は青々として花を咲かせています、お釈迦様が入滅しても



その教えは枯れることなく連綿と受け継がれていくことを示しています。葬式の時に祭壇に置いてある花瓶には紙華(四華花)といって真っ白に枯れた沙羅双樹を模したものとで向かって左が色の花右が白の花の場合もあります。

宝台の手前で手を投げ出して倒れているのは一番そばに長い間一緒

にいたアーナンダ(十大弟子)です。お釈迦様が涅槃に入られて嘆き悲しんで気絶してしまいました。

唯一、宝台に乗りだしてお釈迦様の足をさすっている人物がいます。この人物には諸説あり、お釈迦様が若い頃、修業中に乳粥を渡したスジャータといわれることもあります。よく言われるのが百二十歳のスバッタという弟子で、お釈迦様のお説法を聞くためにここで待っておられ、それを知ったお釈迦様は死後の力を振り絞って御説法をされ、最後の弟子となられた方です。ここではお釈迦さまの四十五年間の旅を労って足をさすっておられるところです。

実際のお話は
YouTube で



3月の聞法会は

17日(日) 午後1時半

広瀬福寿大学修了式・広瀬老人会追悼会

講師 大島 一声さん

(高岡市荒高屋)

気軽にお誘いあわせてお参りください。

五木寛之の『親鸞』を読破しました。レポートも終わり、久しぶりのお楽しみの読書でした。本書のあとがきに「重要なのは宗門(西本願寺の)から『大胆不敵なフィクションの部分』は多々あるが、親鸞思想の根本はいささかも踏み外さずに捉えている」と高く評価されている点である。」とありました。アクションや恋愛といったエンタメ要素の一方で法然上人の出遭い、承元の法難、越後・関東での布教、善鸞義絶などといった親鸞のご生涯をなぞりながら、興味深く読むことができました。

庭の水仙や梅の花が開き、春はもうすぐそこまで来ています。被災地にも早く穏やかな生活が訪れますように。

南無阿弥陀仏

(坊守より)

発行 〒939-1664富山県南砺市竹内440
真宗大谷派(東) 小塚山真敬寺 宮地修
0763-52-0196 携帯電話090-3760-5692



shinnkyouji.com

検索

